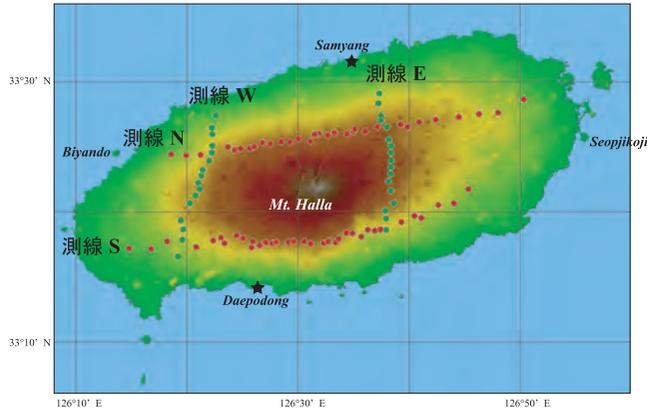


濟州島におけるMT法調査 - 超長距離リモートリファレンスの適用

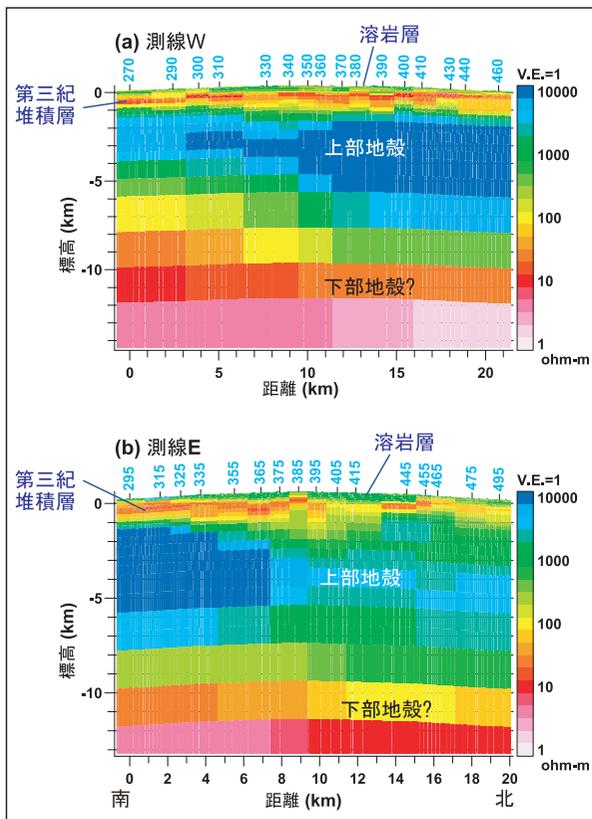
<内田 利弘¹⁾・Yoonho Song²⁾・Tae Jong Lee²⁾・Seong Kon Lee²⁾・Seong Keun Lim²⁾>



口絵1：濟州島におけるMT法測点配置。濟州島は火山島であり、中央に標高1,950mのHalla火山が聳え、島全体に多数の寄生火山ドームが分布する。



口絵3：MT法調査では夜間にデータを取得する。自動測定のために測定装置のセットアップを行っている。



口絵2：MT法データの2次元インバージョンによって得られた比抵抗構造モデル。地表付近には高比抵抗の溶岩層があり、その下位に低比抵抗の堆積層の存在が推定される。



口絵4：鉛直磁場センサーの設置する穴を鉄パイプを打ち込んで掘っている。溶岩が多く、大変な労力を要する。



口絵5：島北部のSamyang海岸に掘削されたKIGAM調査井のコア。地表から深さ約90mまでは溶岩層、それ以下は堆積層。

1) 産業技術総合研究所
2) 韓国地質資源研究院 (KIGAM)